

砺波市新庁舎整備基本計画 概要版（案）

基本計画では、基本構想で示された「市民の利便性向上」「災害対応」「経済性」「執務環境の改善」といった基本方針に基づき、新庁舎での実現に向けた具体的な検討を行いました。さらに、新たな働き方の検討として、財政課におけるパイロットオフィスの実施や、砺波市新庁舎整備検討委員会などでの議論を重ね、今後の整備に向けた基盤となる「砺波市新庁舎整備基本計画」を取りまとめました。

1 基本計画策定の趣旨

基本計画では、これまでの取組みに基づき具体的な検討を行います。この方向性が今後の重要な判断要素となります。

これまでの
取組み

- ・市民とともに、基本理念と基本方針を検討。
- ・R 6 基本構想では建設場所の方針を決定。

基本計画
～R 7年度

- ・基本構想を具体化する基本的な計画を決定。
- ・新庁舎の条件（導入機能、規模、概算事業費等）を決定。

基本設計

- ・基本計画を詳細検討。
- ・実施設計・工事へ進める作業段階へ。

実施設計

- ・基本設計に基づいて、デザイン・技術の詳細設計。
- ・工事の実施に必要な実施設計図を作成。

新庁舎整備

- ・実施設計に基づき、新庁舎を整備。

2 新庁舎整備の基本事項

基本理念 「市民の安全を守り、環境と人にやさしく、機能的でコンパクトな庁舎」	
基本方針 1	市民の安全・安心を第一に、災害時にも業務継続可能な庁舎
基本方針 2	市環境に配慮し、人にやさしい庁舎
基本方針 3	経済性を考慮し、機能的でコンパクトな庁舎

新庁舎整備場所「富山県花総合センター敷地」

3 新庁舎に備える機能

<災害対応時の業務継続機能>

ライフラインの断絶時にも、直ちに災害対策拠点として最低 7 2 時間の業務を継続するため体制を整えます。

<災害対応時の庁舎転換機能>

災害対策本部を直ちに設置し、業務継続や受援体制構築を円滑に行える諸室を整備します。そのため、フェーズフリー※1の考え方を取り入れ、状況に応じて柔軟に対応できる庁舎とします。

<耐震安全性の確保>

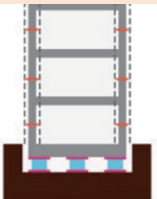
地域防災拠点として市民が安全に利用できる官庁施設として備えるべき耐震安全性を確保します。

<構造方式の検討>

庁舎棟については、巨大地震発生時に地域防災拠点として業務を継続できるよう、構造方式については免震構造とします。

免震構造

- ・建物下部の免震装置で揺れを減らし、地震エネルギーを吸収
- ・業務継続機能に優れる



4 新庁舎に求める機能

<ユニバーサルデザイン>

誰もが快適に利用できるユニバーサルデザイン※2を導入します。

<動線計画>

平面計画をシンプルに配置するとともに、わかりやすい案内サインを導入します。

<Z E B 化>

快適な室内環境を実現しながら、環境にやさしい庁舎として、費用対効果を考慮し Z E B ※3化を検討します。



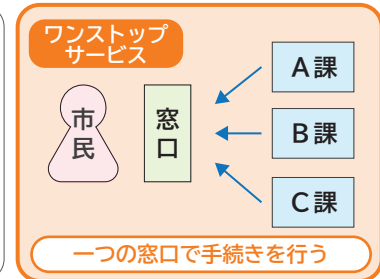
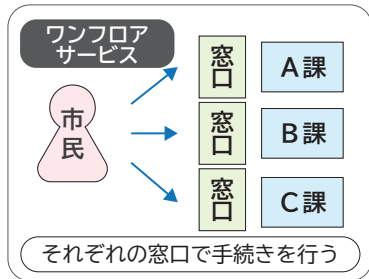
わかりやすい窓口のイメージ（鳴門市）

5 新庁舎に導入する機能

<窓口・相談機能>

市民の利便性向上の観点から、ワンストップサービスの導入を進めます。また、窓口 D X により、市民の手間や時間の削減、職員の事務負担を軽減します。

ワンフロアサービスとワンストップサービスのイメージ



<将来を見据えた執務機能>

見渡しの良いフロア構成やユニバーサルレイアウトの採用、A B W ※4の導入、電話設備の検討により、来庁者にも職員にも快適で健康的な環境の確保を図ります。

<議会機能>

市の議決機関としての独立性を考慮し上層階へ配置して、効率的な議会運営に対応できるよう、什器は移動式を基本に検討します。

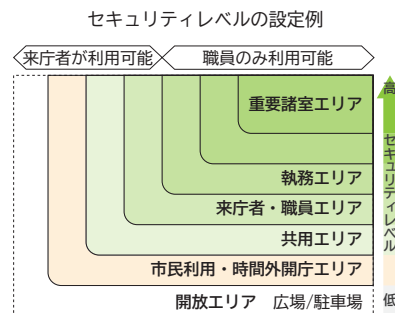
また、議会閉会中における議場の空間を有効に活用するため、使用方法について検討します。



議場のイメージ（袖ケ浦市）

<防犯・セキュリティ機能>

庁舎内では、個人情報や行政情報等の重要な情報を取り扱うため、情報の保護やセキュリティ機能を適切に確保します。



6 新庁舎の規模とコストの検討

<規模の算定>

執務面積は現庁舎規模を維持した上で、ワンフロア型採用や共用部の効率化による規模の適正化を検討し、計画面積を算定します。

また、利用状況や業務の効率性、動線交差等に配慮して、健康センターの健診部門、車庫、書庫・倉庫は別棟で計画します。

庁舎		5,500 ㎡
健診棟	健康診断等健診部分	540 ㎡
車庫棟	車庫、倉庫	1,040 ㎡
計画面積合計		7,080 ㎡

新庁舎として整備する面積 約 7,100 ㎡

<階構成>

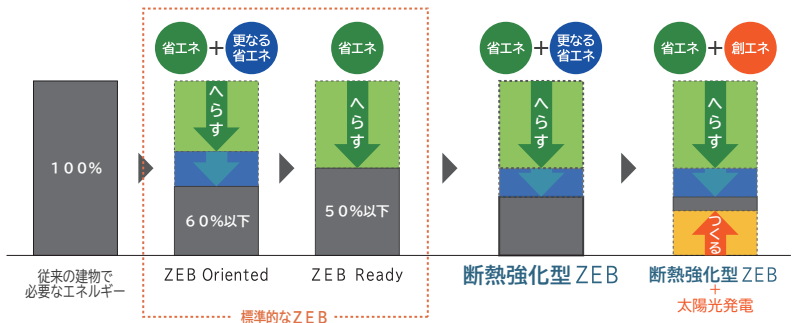
新庁舎の階構成案

3F	・議場、議会関連諸室 ・会議室 ・機械室
2F	・市長室、副市長室等 ・執務室 ・会議室
1F	・ホール ・市民窓口 ・多用途活用スペース

1 階に市民利用の多い部署を配置し、2 階及び 3 階には、災害対応時を想定した部署や議会を配置します。

<エネルギー消費量の低減>

標準的な Z E B から断熱性能を強化した「断熱強化型 Z E B」により、ライフサイクルコストの低減が期待できます。また、太陽光発電システムを併用することで、より一層のライフサイクルコストの削減が期待できます。



7 『となみ』の魅力を育む新庁舎整備

配置計画の基本的事項

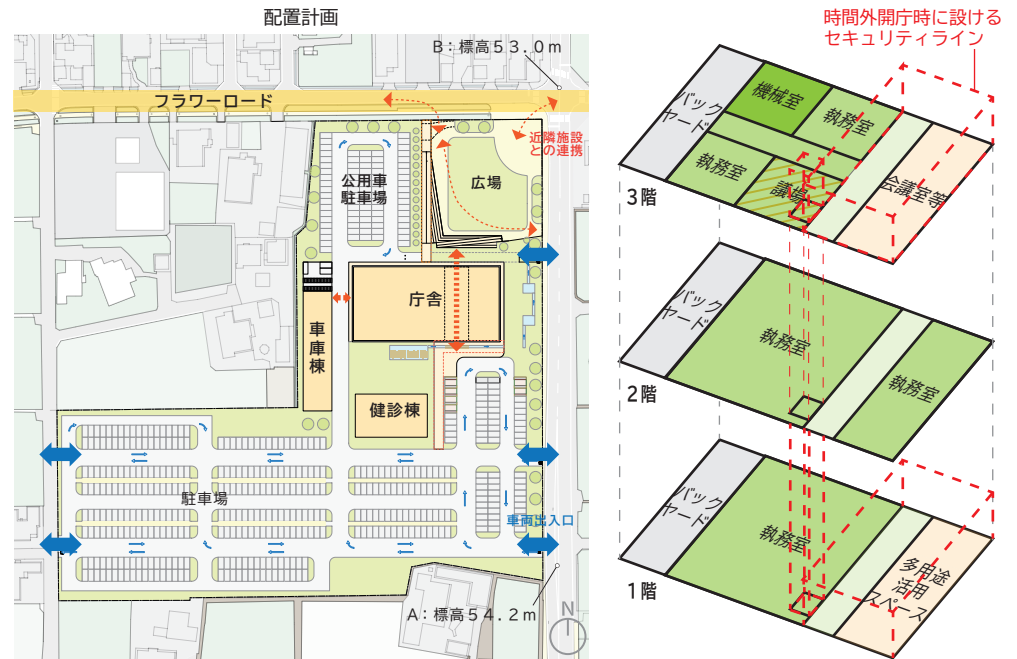
- ・省エネルギーに配慮し東西軸を配置
- ・駐車場の適正な配置
- ・広場と緑地スペースの適正な確保
- ・歩車分離による動線の確保
- ・扇状地を生かしたランドスケープ
- ・調整池機能をもつ広場

<庁舎の活用>

休日・夜間利用や市民向けの機能的な活用により、効率的な運用を図ります。

<環境への取組みモデル>

木材の積極利用や、太陽光発電等の再生可能エネルギーを活用し、E V 車両の充電システムの構築を検討します。



8 新庁舎整備の事業手法及び事業費

<事業手法> 基本設計先行型 D B 方式とします。

<概算事業費> 8 6. 8 億円

R 7 2025	R 8 2026	R 9 2027	R 10 2028	R 11 2029	R 12 2030	R 13 2031
基本計画	事業者選定	基本設計	コンストラクション・マネジメント※5			
		事業者選定	実施設計	建設工事	◇供用開始	
			解体工事		外構工事	

財源内訳	金額（億円）
建設工事費	7 6. 0
什器・備品費、移転費	3. 3
敷地購入費	6. 0
設計・監理費分	1. 5

9 今後の進め方

「コンストラクション・マネジメント」を導入し、費用対効果の最大化を図ります。あわせて、組織体制の見直しや人材育成にも取り組み、各事業段階での情報を適切に市民へ開示し、分かりやすく質の高い庁舎整備を目指します。

※1）フェーズフリー：身のまわりにあるモノやサービスを、日常時はもちろん、災害対応時にも役立つようにデザインする考え方。 ※2）ユニバーサルデザイン：年齢、性別の違い、障害の有無によらず、誰にとってもわかりやすく、使いやすい設計のこと。 ※3）ZEB：Net Zero Energy Building（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の略称。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のこと。 ※4）ABW：Activity Based Working の略称。業務の内容や目的に応じて働く場所を多様な環境から選べるワークスタイルのこと。 ※5）コンストラクション・マネジメント：建設プロジェクト全体の管理・運営を行う業務のこと。